

令和4年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

算数

	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
3年	○基礎的な知識の定着は見られるものの、知識を応用して問題を解く力に差がみられる。	○基礎的な知識を使って、様々な問題に取り組ませるようにする。理解を深めるために、思考の過程を言葉、図、数、式、表、グラフなどいくつかの方法で表現させ、相互を関連付けて説明できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の到達率(A評価が約8割)と思考・判断・表現の到達率(A評価約8割)共に高い水準である。 ・文章問題に苦手意識をもっている児童が見られる。
4年	○知識・技能の到達度(A評価が約8割)と比較すると、思考・判断・表現の到達度(A評価約3割)と低くなっている。 ○個々の定着度の差が大きい。	○「なぜ、その計算になるのか」「どうしてそのやり方で求められるのか」を問い、学習内容を知識として定着させるだけでなく、学習を結び付けて考えたり説明できたりするように日々の授業で考えさせる。 ○児童一人一人に合った進度で進めることができるように少人数学習を利用して支援していく。	
5年	○思考・判断・表現の下位層の割合が比較的大きい(C評価18%)。	○既習の振り返りを適切に行うとともに、思考の過程を大切にできるような価値付けながら丁寧に問題に取り組ませる。その際に学習内容の発展を意識させることで、思考力・判断力・表現力の向上につなげていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能のA評価層が少ない。 ・思考・判断・表現のB評価層が全体の60%程度に留まっており、全体の底上げが必要である。
6年	○テストでは、思考・判断・表現の成績は高い(A評価15%)もの	○考えを交流する場面では、黒板の前で数名の児童が発表するだけではなく、小グループで互いの考えを伝え合う活動を積	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表できる児童が増えた。

	の、自分の考えを筋道立てて説明することができる児童はかなり少ない。	極的に取り入れていく。 ○解答に示す数や式の出所を言葉で補うなど、数式だけでない表現方法を示す。	
--	-----------------------------------	---	--